

## I 研究主題

多様性を互いに認め合える関係づくり

## II 研究仮説

人間関係づくりに必要な手法を理解し、指導を工夫すれば、互いに認め合うことができるだろう。

## III 研究主題設定の理由

### 1. 設定理由

本校では、昨年度まで国語科における思考力や想像力を養う読む力の育成を研究としていた。本校の学校目標は、「明るく生き生きと学ぶ学校」である。この学校目標を達成するため、①自ら学ぶ子 ②共に生きる子 ③たくましい子 の3つの望ましい児童像を設定している。

今年度、昨年度まで行っていた国語科の研修から、児童理解・児童支援の分野に研修の方向性を变化させた背景に、児童を取り巻く環境が多様化してきているという点が挙げられる。様々な支援を必要としている児童を共通理解していく中で、有効な手立てや、児童同士が他者を理解し、認め合える関係をつくっていけるような学習環境が必要であると考えた。

本校の児童の実態として、まず自分の思いを伝えたり、相手の思いを受け取ったりするスキルが不十分であると感じる。これは、新型コロナウイルスの感染拡大により児童同士が関わる様々な活動が制限されてきた影響は無視できない。今一度、児童が思いを伝え合い、互いの違いや良さに気付いていけるような活動の場を設定していきたい。

また学校の実態として、支援が必要な児童の共通理解は図っているものの、合理的配慮や支援の手立てまでは、共通理解されていないのではないかと考えられる。

以上の実態から、児童の様々な特性から考えられる学校生活における困難さを教師自身が理解できるよう理論研修を行い、支援に生かしていけるようにしたい。更に児童同士が自分と他者は、考え方や感じ方が同じとは限らないことを知り、それをあたりまえに受けいられるような関係づくりを目指していく中で、本研究の主題である「多様性」に迫れるよう、研究を進めていきたい。

## 2. 研究仮説について

### (1) 人間関係づくりに必要な手法の理解

主題にある「多様性」には、児童らを取り巻く環境や、一人一人の特性など様々な要因が含まれている。まずは特性に対する知識を深めたり、環境に影響される児童の行動に対して理解を深めたりしていけるようにしたい。その上でどのような手法があるのか、様々な実践例を学んだり、理論研修を行ったりしていきたい。

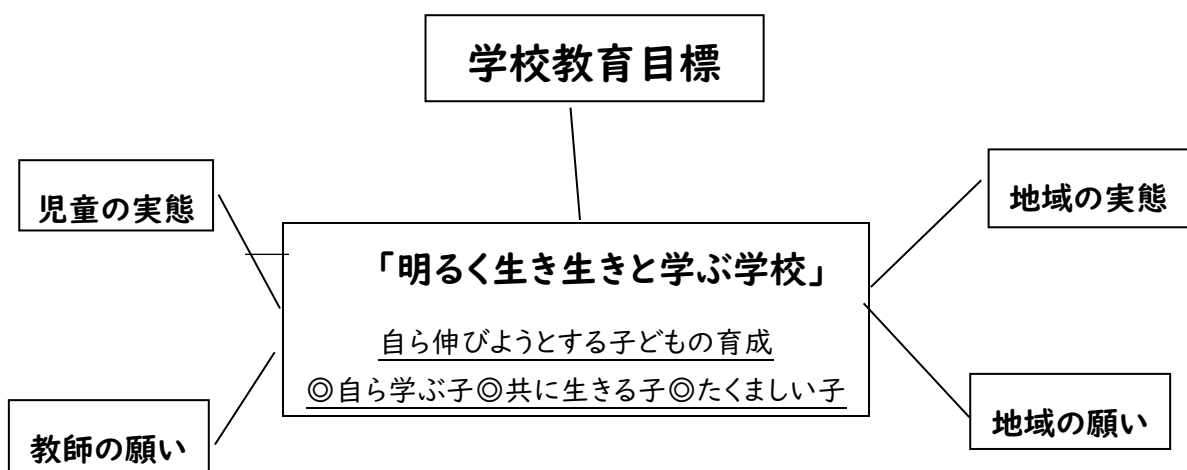
### (2) 合理的配慮や指導の工夫

児童らの人間関係づくりを支えていくために、合理的配慮や指導の工夫を実践し、またそれが有効なものであるか検証していく必要がある。更に他のクラスでの実践を知ることによって自身の教育活動に生かしたり、学年が変わっても継続的に指導したりしていく基盤となるだろう。互いを認め合う土壌は、集団が変わっても児童の中に確かに育まれているものでなければならない。

以上の2点を焦点に研究仮説を設定し、実践していきたい。

## 3. 研究の目標

本研究は、本校の学校目標を達成するための3つの児童像の1つである「共に生きる子」につながると考える。この児童像に迫るために、今年度は理論研究や児童の実態分析に重点を置き研究を行う。「多様性を認め合う」児童の素地を養っていくことを目指したい。



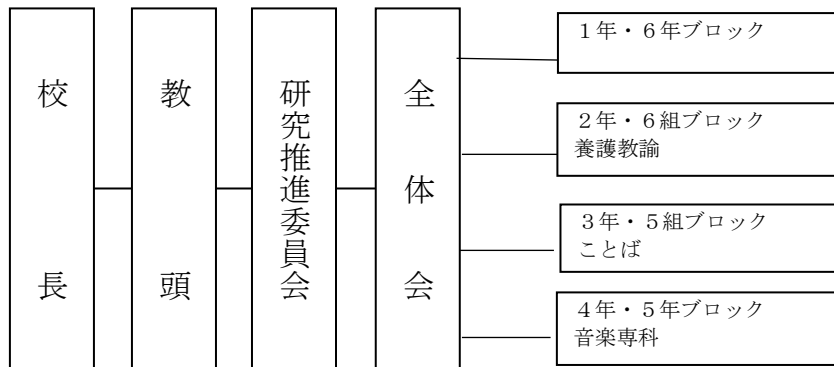
## 研究主題

多様性を互いに認め合える関係づくり

## 研究の仮説

人間関係づくりに必要な手法を理解し、指導を工夫すれば、互いに認め合うことができるだろう。

## IV 研究の組織



## V 研究の推進

### 1. 研究推進委員会

- (1) 共同研究における企画運営機関を研究推進委員会と称し以下「研推」と称する。
- (2) 校長・教頭・教務主任・各学年から成る研究推進委員をもって構成する。
- (3) 研推は、共同研究における企画・連絡・調整・運営・推進機関とする。

(4) 研推は原則として月1回開き、児童理解の研究の推進に努める。

## 2. 全体研修について

(1) 全体研修は、必要に応じて持ち、全体的な成果・問題点・運営方法などを検討するほか、参考文献や先進校の資料をもとに、理論研究にも努める。

(2) 職員の共通理解を図るために、必要に応じて持つことにする。

(3) 年度末に、本年度の研究の振り返りをして、次年度の研究の方向を決める。

## 3. 研究の進め方

(1) 話し合いを深めるために上記の各ブロックで進める。担外は各ブロックに分かれる。

(2) ブロックの中で、仮説にどのように迫っていくのか話し合い、研究をすすめる。

(3) 各ブロックで行った分析の過程や児童の様子を実践発表する。実践発表には講師を招聘し指導・助言を受け、学校全体で研究する。授業後の話し合いは、研究仮説や授業の視点に基づき、話し合いを焦点化していく。

# VI 年間計画

\*毎週木曜日に研修の時間を設ける。

\*毎月一回、研究推進委員会を開く。

月日(曜日)	形式	研究・研修内容
4月14日(金)	研究推進委員会	令和5年度の研究計画(案)・柱づくり
4月27日(火)	研究全体会	令和5年度の研究計画(案)
5月18日(木)	研究推進委員会	各ブロックの目標の確認・校内授業研究会の日程調整
6月8日(木)	研究推進委員会	今年取り組みたいことをもとにグループを作る
6月14日(水)	全体研修会	理論研修 講師:渡辺先生
6月29日(木)	ブロック	
7月6日(木)	ブロック	
7月27日	全体研修	夏季実技研修 [体育] 講師 重松先生 [特別支援] 講師 川口先生
9月14日(木)	研究推進委員会	
9月~11月	ブロック	児童の実態把握、講師の指導 9月22日・・・3年、5組

		9月27日・・・2年、6組 10月27日・・・1年、6年 11月1日・・・4年、5年
10月 5日 (木)	全体研修会	チャット GPT
10月12日 (木)	研究推進委員会	
11月15日 (水)	全体研修会	実践報告会 (3年、5組、2年、6組)
12月13日 (水)	全体研修会	実践報告会 (1年、6年、4年、5年)
1月22日 (月)	個人・ブロック	レポート作成 振り返り
2月20日 (火)	研究推進委員会	アンケート検討
2月27日 (火)	全体研修会	令和5年度の研究のまとめ